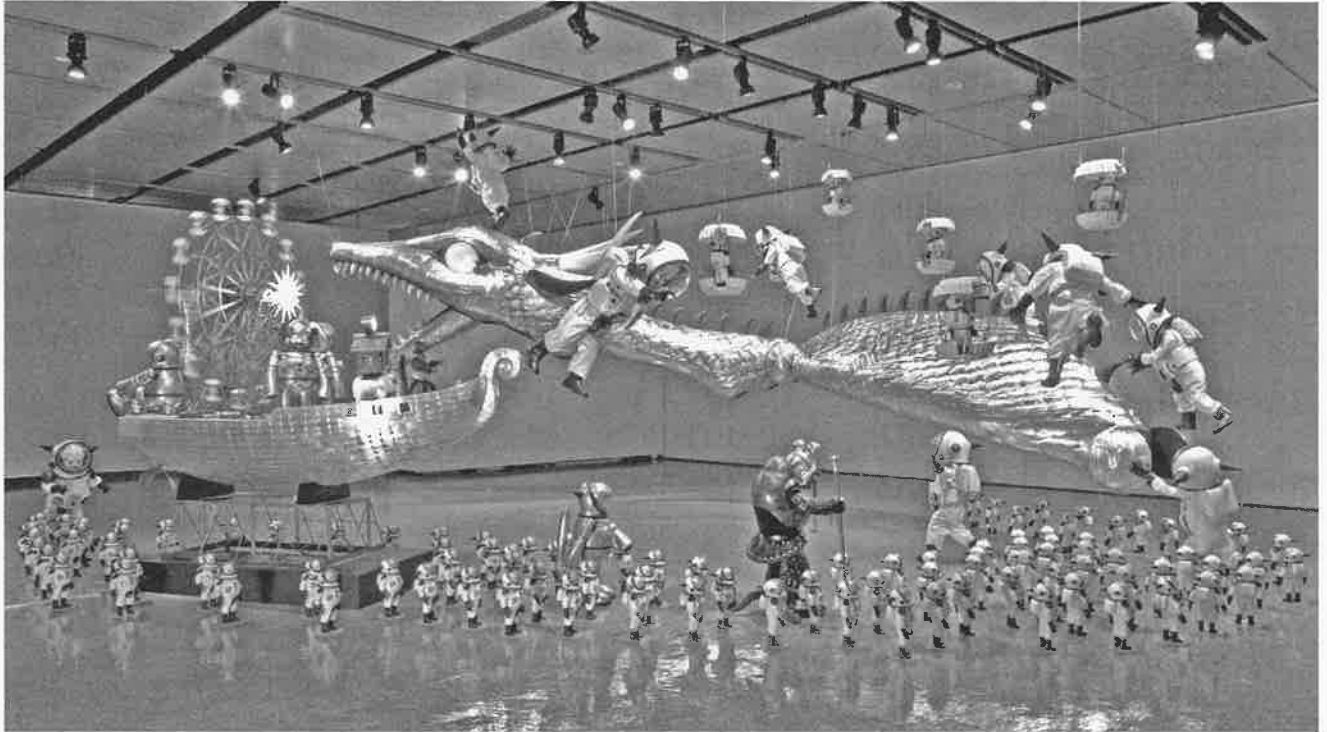
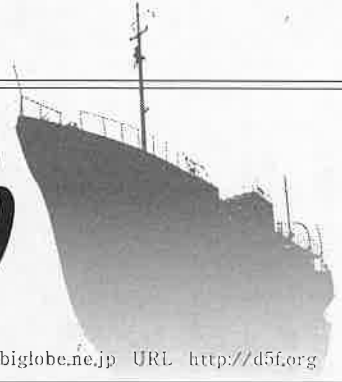


2012.05.01
No.369
(5・6月号)

福竜丸だより

発行：公益財団法人 第五福竜丸平和協会 連絡所：東京都江東区夢の島2-1-1 〒136-0081 第五福竜丸展示館内
Tel.03-3521-8494 Fax.03-3521-2900 E-mail : fukuryumaru@msa.biglobe.ne.jp URL http://d5f.org



【ヤノベケンジ作品】ラッキードラゴン構想模型〈船〉とラッキードラゴン〈龍〉。アトム・スーツのトラヤン人形と一緒に未来への希望の航海 福島県立美術館にて2011年4月～10月の展覧会より

第五福竜丸65年と現代アート

明日へ

—希望をたもちつづけるために

東日本大震災・福島第一原発事故から一年余りがすぎました。多大な犠牲、いままづく困難を想い、「3・11」を問いつづけてゆきたいと心から願います。

第五福竜丸展示館の前のひろばでは、八重紅大島桜が例年より少し遅く花をつけました。花の訪れとともに修学旅行の季節が始まります。ボランティア・ガイドの方々も、生徒たちへの対応を構想します。

今年には第五福竜丸建造六五年にあたり、あらためて希少な木造船の歴史をたどり、戦後、核の時代、被ばくの被害に関心を寄せていただくとともに、今後の保存についても関心を広げたいと考えます。

数奇な歴史を持つ木造船第五福竜丸にインスピレーションを感じて現代アーティストのヤノベケンジさんは、ラッ

キードラゴンという作品をつくり、さらに火を噴く龍頭をもち実際に水面を走る船「ラッキードラゴン」を制作しました。

昨年、ヤノベさんは東日本大震災と原発事故に直面する中から想を重ね「サン・チャイルド」を制作しました。第五福竜丸の六五年をたどる展示とヤノベ作品の展示を船体をとりまき、甲板上に展開します。特別展示として「サン・チャイルド」が展示館前ひろばに屹立します。

核の惨禍・被害から明日への、「希望を保ちつづけるために」との林光さんの言葉を心にとめて、広島市の被爆ピアノ二台によるコンサートが五月一三日に開かれます。第五福竜丸とともにアートが私たちを明日への希望の視座を作りだすことができればとの思いを込めた企画です。

企画展 建造六五年 第五福竜丸から

ラッキードラゴンへ

核なき世界への航海を

第五福竜丸の航海と今後の保存を考える展示

建造六五年を迎えた第五福竜丸の建造から大補修、そして今後の保存を考える企画展示です。

通常、木造船の寿命は一五年から二〇年といわれます。戦後の食糧難の時代に造られ、カツオ漁、遠洋マグロ漁船として酷使される中で水爆実験に遭遇しました。船体は政府に買い上げられ



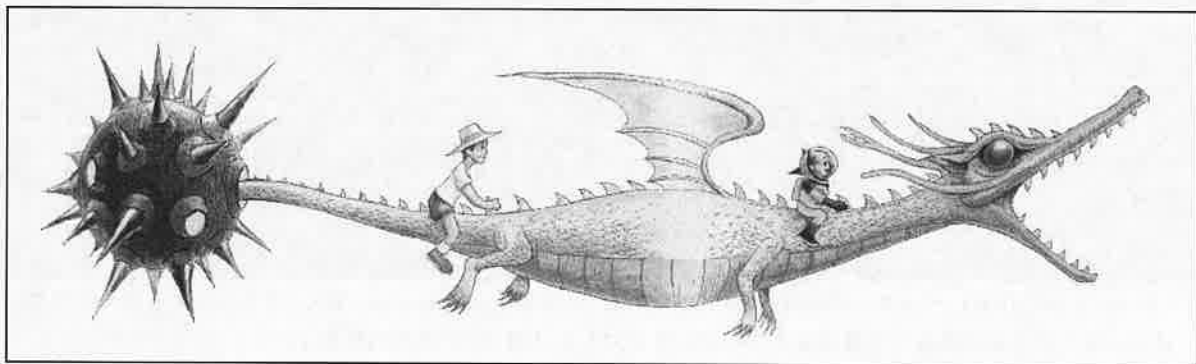
和歌山県古座の記念碑

て東京に曳航され、二年余の残留放射線の検査ののちに改修され水産大練習船「はやぶさ丸」となりました。

一九六七年三月廃船処分、船を引き取ったスクラップ業者は船体を夢の島に放置しました。傾く船体の事が報じられると、船の保存の声が聞こえます。一〇年近い保存のとりくみにより、七六年六月、東京都により建設された第五福竜丸展示館に船体は納められました。

【展示解説】

- 1、カツオ船〜第七事代丸誕生 船を作った男たち
- 2、マグロ船〜第五福竜丸へ 焼津の第五福竜丸へ
- 3、練習船はやぶさ丸へ
- 4、廃船〜保存 夢の島の第五福竜丸へ
- 5、第五福竜丸の再生〜大補修 保存工事 木造船の建造技術



ヤノベケンジ(ヘッドローイング)「ラッキードラゴンのお話」(2009)より

〈現物資料〉

船大工の道具と船の器材：舵輪、探照灯、船釘、大型鋸丸カンナ、ちょうな、つばノミほか。

現代アーティスト・ヤノベケンジさんと第五福竜丸

ヤノベケンジさんは、二〇〇四年七月に展示館で開かれた現代アート展に際して「森の映画館」(山小屋風、実は子ども達のための核シールド)を制作しました。

ヤノベさんは、これまで「放射線防護服」をモチーフにした作品(イエロースーツ、アトム・スーツ、アトム・カー、アトム人形など)、核に関する作品を制作、その背景には、一九九一年の美浜原発事故、九七年のチェルノブイリ訪問などがあり、そこから第五福竜丸とのつながりも生まれました。

それは「ラッキードラゴン」作品や絵本「トラヤンの大冒険」「ラッキードラゴンのお話」などに結実しています。

二〇〇九年には「水都大阪」企画に参加し、水面を走る船

「ラッキードラゴン」を制作、長い龍頭が火を噴く作品が大きな話題となりました。

二〇一二年の東日本大震災にあたり、ヤノベさんは、「立ち上がる人々」のメッセージを発信し、自身の巨大作品「ジヤイアントとらやん」を京都造形芸大に設置、さらに福島県立美術館にて「ラッキードラゴン」構想模型を中心にした展覧会をおこない、「トラヤンの方舟計画」を展開しました。そして「未来への希望、核も放射能もない世界に生きる子ども」を構想した「サンチャイルド」を制作し、太陽の塔のある大阪・万博記念公園、岡本太郎記念館、大阪・南茨木駅前(常設展示)、モスクワ近代美術館などで展示してきました。

今回、展示館では、甲板上にアトムスーツ人形と龍のドローイングの映像、船と対面するようラッキードラゴンの映像、ビデオインスタレーション、絵本のドローイングの複製などが展示され、展示館まへのひろばには「サンチャイルド」(高さ6メートル余)が特別展示されます。

40年ぶりの 「ビキニ」

斉藤達雄

二月二十八日から三月七日まで、フォトジャーナリスト島田興生さんを中心に、マーシャル諸島共和国へのスタディ・ツアーが行われ、第五福竜丸平和協会評議員の日塔和彦さん、デザイナーの上浦智宏さんが参加しました。ツアーに同行した元共同通信ホルル支局長の斎藤達雄さんに、ご寄稿いただきました。

マーシャル諸島へ行ってきた。私事で恐縮なのだが、四〇年ぶりの再訪である。

四〇年前、マーシャル諸島の住民の中にもヒバクシャ（被曝者）がいることが明らかになりつつあった（日本人だけではない）。そしてこの四〇年のうちに、核のあると

ころ世界中に核被害者（ヒバクシャ）がいることが明らかになってきた。

話を「ビキニ」に限ってすすめたい。気づけば、現在はビキニの民は方々に散らばって住んでいる。キリ島に二二〇〇人、首都マジユロに二二二五人、エジツト島に二七五人、イーバイ島に三五〇人、そしてハワイや米本土にも七五〇人が住んでいて、そのうち五〇〇人が学生だ。現存の計約四〇〇〇人（ビキ

ニを離れた時は約二〇〇人）のうち、わずか三四人がビキニ生まれだ。

故郷を追われたのが一九四六年。流転の最初の島はロンゲリックだった。食べ物がない島。米国の勧告でそこからウジェランへ移る予定が、再び米国の一方的な都合でそのままロンゲリックで飢餓生活を続けた。

ここで、ビキニの民がどれほど望郷の念を抱き、一日いちにちをなんとか生きのびて



ロンゲラップの被曝女性たちとの交流 3月3日RREホテルのバンガロー。

写真下は、福竜丸の写真展を開くツアーメンバー。

ビキニ環礁ローカルガバメント事務所で

撮影：島田興生



いた様子を思い起こしておきたい。

ビキニ環礁には人間が住んでいた。彼らの場所が「戦争をなくし人類の平和」（核実験のこと）のためにつかわれると米国側の説明をうけ、当時約二〇〇人の住民は言われるままに無人島へ移った、すぐ故郷へ帰られると考えながら。それから一年たった時の、元ビキニ島民と米軍当局との話し合いは次のようなものであった。

「諸君はこのままロンゲリックにとどまりたいそうだが本当か。食料がないというではないか」「食糧事情はともかくも悪いです」「それなのにここにいるというのかね」「政

府が移動せよというのなら：」「ここで飢え死にするよりはその方がましだろう」「われわれはビキニが恋しいのです」「ビキニにはもう人は住めないのだ。同じ居住施設をほかの場所に提供しようといっているのだ」「みんな飢えてはいないのかね」「おなかはずきつばなしです」「君が最後に何か食べたのはいつかね」「昨日、小さな魚を一匹」「もっと住みやすい島に移りたいとは考えないのか」「はい、考えます」「それなのにどうしてロンゲリックにとどまりたいのかね」「ここは、それでもまだビキニに近いのです」（拙著『ミクロネシア』）

ことし（二〇一二年）二月にビキニの新市長（メイヤー）がえらばれた。ニジマ・ジャモレ、三七歳。マジユロ生まれのキリ島育ち。ビキニ生まれではない。ビキニは四〇余年前に米国が除染したが今も残存放射能だらけらしい。

（さいとうたつお）

〈解説〉

ひびきあう 被爆ピアノの調べ

2台のピアノ

3つのステージ

4日間5つのコンサート

7人のピアノニスト

このたび都内三会場で開催される被爆ピアノコンサートを数字で説明すると、こんな

感じでしょうか。

一九四五年広島に投下された原子爆弾により被爆したピアノが、その傷と年月とで傷んだ体を丁寧に修復され手入れされ、今春、奏でられることになりました。

コンサートをよびかけた汐

谷恵美子さんは、亡き父の思

い―戦争推進のために製造さ

れた零式戦闘機（ゼロ戦）の

設計チームの一員であったか

らこそ、戦争のない時代、人

が殺されたり殺したりしない

平和を誰よりも切望した―を

引き継ぎ、このコンサートを

企画しました。

とはいえ、被爆の有無にか

かわらずピアノはピアノ。そ

こから、どんな声を聴きとるのかは、演奏者・聞き手の思いです。

被爆したピアノ

このたび東京に運びこまれるのは「ミサコのピアノ」と「カズコのピアノ」です。

ミサコのピアノはヤマハ一九三二年製造。爆心地一

八キロ（広島市中区千田町）

の民家で被爆しました。持ち

主のミサコさんの思いは「ミ

サコの被爆ピアノ」（松谷み

よ子・作 木内達朗・絵 講

談社）『ヒロシマのピアノ』（指

田和子・文 坪谷令子・絵

文研出版）でも知ることがで

きます。

カズコのピアノはホルゲル

製（製作年不明）。爆心地か

ら二・六キロ（広島市南区段

原山崎町）で、持ち主の和子

さんとともに被爆しました。

姿は被爆当時のままです

が、いずれも調律師の矢川光

則さんに託され、演奏できる

ように修復されています。

@KEN

五月一日、二日は世田谷・三軒茶屋のアートスパー

スKEN。二日間に個性的な三つのコンサートが開かれます。

一日午後七時半からは崔善愛（チェ・ソンエ）さん

のピアノと斉藤とも子さんの

朗読。一二日午後二時半から

のコンサートでは原マサミさ

さん、近藤達郎さん、上野洋子

さんによるピアノと声を使っ

たパフォーマンズ。午後七時

半からは三宅榛名さんのピ

アノコンサートです。

奏でられる音楽と言葉か

ら、過去と未来、そして今を

「想像」するための体験とな

るひとときになるでしょう。

KENは昨年、一カ月に

わたってアトイイベント

「Expose 死の灰」を開催。写

真、グラフィックデザイン、

音楽や言葉のパフォーマンス

で、「死の灰」を考えました。

また昨年暮れから今年一月に

かけては、映画『世界は恐怖

する』（亀井文夫監督）の連

続上映も開催しています。

@第五福竜丸展示館

一三日は夢の島・第五福竜丸展示館でのコンサート。閉（5めん上につづく）



デザイン 上浦智宏 (ubusuna)

第五福竜丸と被爆ピアノ

矢川光則

広島市の被爆二世のピアノ調律師として、被爆者より「被爆ピアノ」を核兵器廃絶と恒久平和のために授かり一〇年前より自らのトラックで全国巡演しています。

二〇一〇年一月、第五福竜丸展示館で私が修復した

一昨年到现在もまた木造船とピアノがどのような響き合うか心待ちにしています。

（やがわみつのり／ピアノ調律師・被爆ピアノ修復）

館後の午後四時半から「明日へ：希望をたもちつづけるために」と題して行われます。第一部は「FUKUSHIMAから明日へ」。室坂京子さんのピアノと水野俊介さんの五弦ベースによるオリジナル曲の演奏。「After 3・11」「しずかに世界を想う時」と、考えさせられるタイトルが並びます。

第二部のテーマは「希望を

たもちつづけるために」。この言葉は、展示館で開かれた〇六年「開館三〇年記念コンサート」で映画「第五福竜丸」の音楽にもとづくピアノ五重奏「ラッキードラゴン・クインテット」初演の際、作曲した林光さんの「第五福竜丸とともに、私たちの希望がずっと保たれるように心から願っています」と挨拶されたことにより。

@明治学院大学

アートホール

一四日午後六時半からは、

被爆ピアノで平和コンサートが行われました。被ばくした木造船とピアノが共鳴し合い、今まで経験したことのない何とも言えない感情がこみあげ自然と涙が頬を伝いこぼれ落ち感無量の心境でした。

昭和二十九年三月一日マシヤル諸島のビキニ環礁でアメリカの水爆実験で被ばくしたマグロ漁船第五福竜丸の船体のもとで昭和二〇年八月六日の原子爆弾で被爆したピアノがきたる今年五月一三日のコンサートで奏でられること心より感謝申し上げます。

最後に原爆投下より六七歳の歳月が経過しましたが核兵器廃絶はおろか核が拡散しています。被爆者も高齢化しており限られた時期に核兵器廃絶の筋道を取りつきたいと心から願っています。

被爆二世の世代で確固たる平和構築への礎を築き被爆三世の世代へは、この暗く重い課題を引き継がせないために五年以内に解決の糸口を見つけ出したいと私は願っています。

港区白金台の明治学院大学アートホールで「希望を紡ぐコンサート」。明治学院大学国際平和研究所との共催です。東京交響楽団元首席チェロ奏者ベアアンテ・ボーマンさんを迎えて、合唱団「カンタンテ・マテルナ」と明治学院大学クラシックギター研究会、根本英亮さん（ピアノ）、城

達哉さん（バイオリン）が演奏します。世代を超えて、さまざまな思いが交錯して祈り、希望を紡いでいきます。まったく異なるコンセプトの5つのコンサートですが、各会場が互いに響きあいながらの4日間。ぜひ足を運んで耳をかたむけてください。



HIBAKU PIANO

「ミサコの被爆ピアノ」 三つのコンサート at KEN

2012. 5.11-12

崔善愛 齊藤とも子
原マズミ 近藤達郎 上野洋子
三宅様名

www.kenawazu.com

KEN (東急田園都市線三軒茶屋より徒歩6分 www.kenawazu.com)

デザイン：横山ひろあき

連載⑭

晴れた日に
雨の日に

—第五福竜丸とともに—

山村茂雄

イヨシノは満開でしたが、八重紅大島桜は三分咲き、大島桜は開花が少し遅いのです。

海からの風が冷たく感じられましたが晴天にめぐまれ、東京の被爆者団体のみなさんをはじめ、主催団体の関係の方々が集いました。

*

第五福竜丸展示館前庭にある八重紅大島桜、まだ若木ですが見事に花を付けるようになりました。八重紅大島桜は「第五福竜丸エンジン」の保存展示を機に二〇〇〇年、東京地婦連・緑の銀行によって記念植樹されたものです。

この八重紅大島桜のもとで二〇〇一年から「お花見平和のつどい」が開かれています。主催は、展示されたエンジンと桜とを結び、エンジンを東京に運び夢の島に迎えた都民運動を引き継ぐようにして生まれた「第五福竜丸から平和を発信する連絡会」です。

今年の「お花見平和のつどい」は四月七日にもたれました。この日東京周辺の桜ソメ

いは、3・11大震災もあり開かれませんでした。

四月から五月、日本列島を北上する桜の開花は、それぞれの地域に春のにぎわいとどけるとともに、花の知らせが、田作り、農作業の、頃合いの目安になるなど、暮らしている者ともなるのです。

四月一九日の新聞に「満開ひっそりと—警戒区域の福島・富岡—」との見出しの記事が掲載されました。原発事故の放射能で立ち入り禁止になっている富岡町夜の森地区のいまを伝えました。満開の桜並木の写真に合わせて「名所の桜が花を咲かせた。例年より一週間ほど遅く開いた無数の花が、人気のない街で揺れている」と書かれています（「朝日新聞」4・19夕刊）。

無数の花が揺れる災害の街や村、いまに戻れない人々の故郷の街や野で咲く花々が語るもの、私たちが読み取り聞き取るべきものは重く、切実です。

*

さくら さくら

散るのが美しいとほめ讃えた

国に

おちるがいい
花びら

いのち
死の灰

石垣りんさんの「落花」と題する七連の詩の三連目、五四年七月の作品です。

「さくら」と「死の灰」を

ならべ「おちるがいい」と書く、諧謔のなかに万人の「いのち」の意味が浮かびます。

石垣りんさんは、一九二〇年生まれ敗戦時は二五歳。戦中、桜は軍国日本のシンボルでした。さくらのように散るそれが軍国の教えでした。筆者の世代も多くの少年が「七つボタンは桜に錨」に送られ戦場に赴きました。戦後、わたしは桜に拒否反応を示していました。「花にとがなき」を、と思えるようになったのはそう遠いことではありません。

*

石垣さんが第五福竜丸展示館を訪れたのは八二年の春、元氣だった広田重道さんの案内で館内をめぐりました。訪問記が「婦人之友」五月号に掲載されています。

訪問記には、ビキニ被災の

こと、福竜丸乗組員のことによく筆が及び、関連して自己を見つめていく詩人の目が際立ちます。福竜丸の被災についてこうも書くのです。

「とんでもない災害に巻き込まれることも知らないで、刻々にその場所に近付いてしまふ。安全であるという約束を信じて。(略)私は自分の日常に当てはめておもわずつぶやいてしまふ。『こわいなあ』——。

石垣りんさんは原爆を、被爆を、ビキニを、また職場の詩、生活の詩、「立場のある詩」を書き残しました。

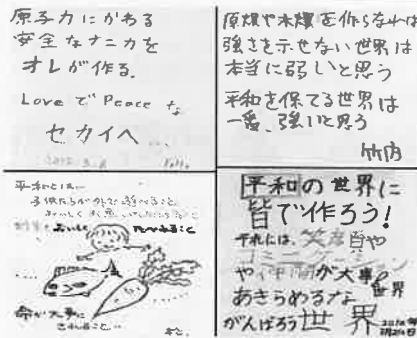
石垣さんとお会いしたのは「現代詩」の詩話会であったか朗読会であったか記憶が薄れていますが、声のきれいなやさしいりんさんでした。「戦争の記憶が遠ざかるとき／戦争がまた／私たちに近づく」とも書いた石垣さんが亡くなったのは二〇〇四年一月二月でした。

(訪問記「春の日夢の島へ」は、ちくま文庫『夜の太鼓』に収録されています)。

(やまむらしげお／第五福竜丸平和協会顧問)

企画展「船を見つめた瞳」を終えて

昨年九月二三日から半年にわたり展示された企画展「船を見つめた瞳」が終了しました。開館三五年の節目に、この五年間に寄せられた感想文、館内アン



一〇〇〇通のメッセージから始まったこの展示は、来館者がさらにメッセージを重ねていくという、日々展示が増えるワークショップも兼ねていました。

あらたに寄せられたメッセージは一五七四通。九センチ四方のカードに、カラフルなイラストや言葉が描かれ、修学旅行で訪れた小中学生や、学年全員から郵送されてきたものもあります。休日には家族が話し合いながら貼っていく姿もありましたし、友達とつなぎ合わせた力作もありました。展示された言葉に

足を止め、考え込んだりメモをとる人もいました。掲示ボードには貼りきれず、幾重にも重なったカードから、来館された方たちの平和の思い、私たちをとりまく核の問題への意識が伝わってきます。

「平和な世界をみーんなで作りたい この世に生れて原爆や水爆、戦争に関係のない人なんて一人もいない」
「おとなには、安心して暮せる世界を次の世代に引き継いでいく義務がある」
「みんなが安心して生活できる世界へ！久保山さんの願いがかないますように」

タヒチのヒバクシャとの出会い

蓮沼佑助

私は今年二月下旬、広島・長崎の被爆者の方々と共に南太平洋のタヒチを訪れました。今回訪問したのは、NGOピースボートが主催する『ヒバクシャ地球一周証言の航海』（通称おりづるプロジェクト）の最初の寄港地としてでした。参加したのは被爆者

一〇名と韓国原爆被害者協会名誉会長の郭貴勲さんら。タヒチは正式には仏領ポリネシアといい、今もフランスの植民地下にあります。フランスは一九六六年から九五年度重なる核実験を行い、現在でも核による汚染が続いている。

世界の核被害者を追悼する記念碑に折鶴をささげる被爆者



南国の日差しの中、私たちは現地の反核団体モルロア・エ・タトゥー（モルロアと私たち）に迎えられ、マラエと呼ばれる、広島・長崎など世界中の被ばく地や核実験で汚染されたタヒチ周辺の島々から集められた石で造られた石碑に献花を行いました。続いてモルロア・エ・タトゥーの事務所で開催された証言の会では、日本の被爆の体験や、郭貴勲さんからの朝鮮人被爆者の体験と戦後の訴訟について伝え、タヒチの核実験場元労働者の方々からも当時や現在の様子について、またその想い

をお話していただきました。タヒチのヒバクシャたちは、放射線の障害に苦しみながらもフランス本国から一切の保証もなく被曝の実態すら認められないという中、先の見えない闘いを続けています。彼らの話を聞いた被爆者の一人は、「彼らの助けとなるためには、私たちはあまりに力不足だ。被曝すら認められず補償も受けられないタヒチのヒバクシャたちがあまりにも可哀想だ。」と話していました。

世界にはタヒチのヒバクシャのように加害国からその事実を認めてすらもらえずに苦しんでいる人々がいると聞きます。『被爆国』であり今まさに放射能の脅威にさらされている日本でさえそのことはあまり知られていないと感じました。核による汚染を世界から無くしこれ以上ヒバクシャを生まないために日本に住む私たちが取るべき行動とは何なのだろうかと思う今回のタヒチ旅行でした。

（はすぬまゆうすけ／明治学院大学四年）



サン・チャイルドが立つ

2012年度の事業計画について

第五福竜丸平和協会は、3月18日に理事会を開催し、2012年度の事業計画について審議し、以下の事業にとりくむことを決めました。

◇公益目的事業

今年は東京都の受託事業として308日開館します。昨年は、東日本大震災

の影響などで来館者が減少しましたが、本年はひきつづき団体見学への対応、来館者に対するガイド・解説などを実施し、第五福竜丸についての広報活動につとめます。

●第一回企画展「建造65年記念 第五福竜丸からラッキードラゴンへ核なき世界への航海を」会期5月3日～7月1日。

●第二回企画展「マーシャル諸島の人びとはいま」9月23日から2013年3月（予定）。——帰島のうごきがでているロンゲラップの住民の最新情報をはじめ、人びとの半世紀余をたどります。

◇被ばく60周年記念事業の準備

2014年の第五福竜丸被ばく・ビキニ事件60周年にむけて以下のような記念事業を検討し準備を開始します。

- ①新版「図録」の制作発行。
- ②第五福竜丸についての簡便なパンフレット、絵本などの制作の検討。
- ③被ばく50年以来得られた知見・成果と60年に当たりビキニ事件を総括する研究シンポジウムの開催の検討。
- ④船体の修復保存、エンジンの保存について検討作業を継続します。
- ⑤常設展示を一部リニューアルします。
- ⑥これら事業を推進するため全国的な募金にとりくみます。

ボランティアの会、 お花見平和のつどいで発表

今年の「お花見平和のつどい」は、4月7日に開催され150人が参加しました（7面関連）。つどい第1部は展示館内でもたれ、「あの日からいま」と題して東京地婦連、被爆者の会（東友会）につづき、福竜丸ボランティアの会が展示館の模様と来館者の反響、元乗組員大石又七さんの証言を織り込んだ集団発表をおこないました（写真）。

第2部は、エンジンの前につどい各団体の平和のとりくみ報告をおこない、「青い空」の合唱で終了しました。

